

関ブロユニネスコ活動研究会特集

関東ブロックユニネスコ活動を群馬に迎えて

県ユ協会長 関口 実

いよいよ平成26年度がやってまいりました。群馬県では、関東ブロックユニネスコ活動研究会を遺漏なく開催するため、開催準備の専門組織である「平成26年度関東ブロックユニネスコ活動研究会イン群馬」の実行委員会を昨年五月に立ち上げ、後日送られてきた日本ユニネスコ協会連盟よりの通知の趣旨を生かしながら研究会の骨組の一つひとつに検討を加え、今日に至っております。検討の結果、新しい形になった主なものを以下に記述します。

一、研究会の形
関東ブロックユニネスコ活動研究会は、従来二日間で開催してきましたが群馬大会では一日で実施します。

従来、空白の時間帯であった第一日の午前に開式セレモニーと全体会をセットし、午後の前半に分科会を、後半に懇親会を位置づけられます。従来研究会の中にセットされていたエクスカーション等は割愛されます。

二、分科会の編成
分科会数は全体で4とし、発表数は各分科会ごとに2とします。3〜4の発表

があると分科会の研究協議の時間不足が目に見えているからです。発表数2とすることにより、研究協議の充実が期待できると考えました。

また、各分科会の発表2のうち、1は地元群馬が発表し、もう1つは他都県にお願いいたします。

4つの分科会のテーマは「国際理解交流」「ユニネスコスクール」「世界遺産」「ユニネスコの活性化」です。

三、地元群馬の発表への期待
一、国際理解交流
本県の東毛地域には住民の中に混住する外国人の比率が日本一と言われているところがある。多種多様な問題の発生とその解決策が披瀝されるか。

二、ユニネスコスクール
本県では、各学校は教育計画の充実に悪戦苦闘している。そこへ、ESDの教育内容をどう位置づけることができるのか、興味深い。

三、世界遺産
「富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産としての価値があるかどうか調査に来た専門官二人が群馬県庁で講演した。二

人が異口同音に指摘していたのは「若い人たちに世界の宝をどう伝えたらよいか」ということでした。

四、ユニネスコの活性化
日本各地のユニネスコ協会は、構成会員の高齢化が進み、ユニネスコ活動に活力が失われつつあると言われている。そんなことはない、と反論もある。

関ブロ・ユニネスコ活動研究会 群馬大会の実施にあたり

実行委員長 須田 洋光

群馬県ユニネスコ連絡協議会会員の皆様、新年おめでとうございます。いよいよ群馬県で関ブロ大会が開催する新たな年を迎え、10月25日までの期間を大切に協議し、進めていかなければなりません。さいわい26年度の関ブロ大会は、昨年9月組織の立ち上げを行い、つぎの基本方針の基に大会を開催することが、群馬県ユニネスコ連絡協議会理事会で承認されました。

第一 関ブロ群馬大会を12ユ協による「オール群馬」体制で実施すること
第二 ブロック大会の見直し、改善を踏まえ1日開催とし、簡素にする
第三 ブロック大会を本来の趣旨に基づき研修・交流の場とするため分科会内容の充実を図ること
第四 平成11年度から始まり、12年度・13年度にかけての『経営改善3カ

年計画の方針』を踏まえた地域民間ユニネスコ活動の課題解決の場とする
こと

今年度の行程計画では、年度内中に大会要項・大会予算・各都県案内等を決定し、新年度4月から大会案内・参加案内・大会紀要・大会実施・大会報告書の作成等の分担業務を実行することになります。県内12ユ協の実行委員及び会員の皆様には多大なご協力、ご支援を頂きたいと考えます。

と
ところで群馬県の過去の関ブロ大会は、昭和60年、平成3年、平成8年の大会は、「ユニネスコ活動への青少年の参加」、「地球化時代を担う青少年の参加」、「国際化時代を担う青少年の参加」と平成14年、平成20年では「民間ユニネスコ運動の充実の為の地域活動の問題が取り上げられていること」であります。そうした意味では、常に民間ユニネスコ活動の活性化の為に、時代を担う青少年とどの様にかかわり生かしていくのが大切な問題になるように考えます。

群馬県大会のテーマは「持続可能な社会の創造と実現」―ESD・民間ユニネスコからの発信―と決定し出発したわけでありますが、群馬大会での英断は、大会開催を1日案とし、あえてエクスカー